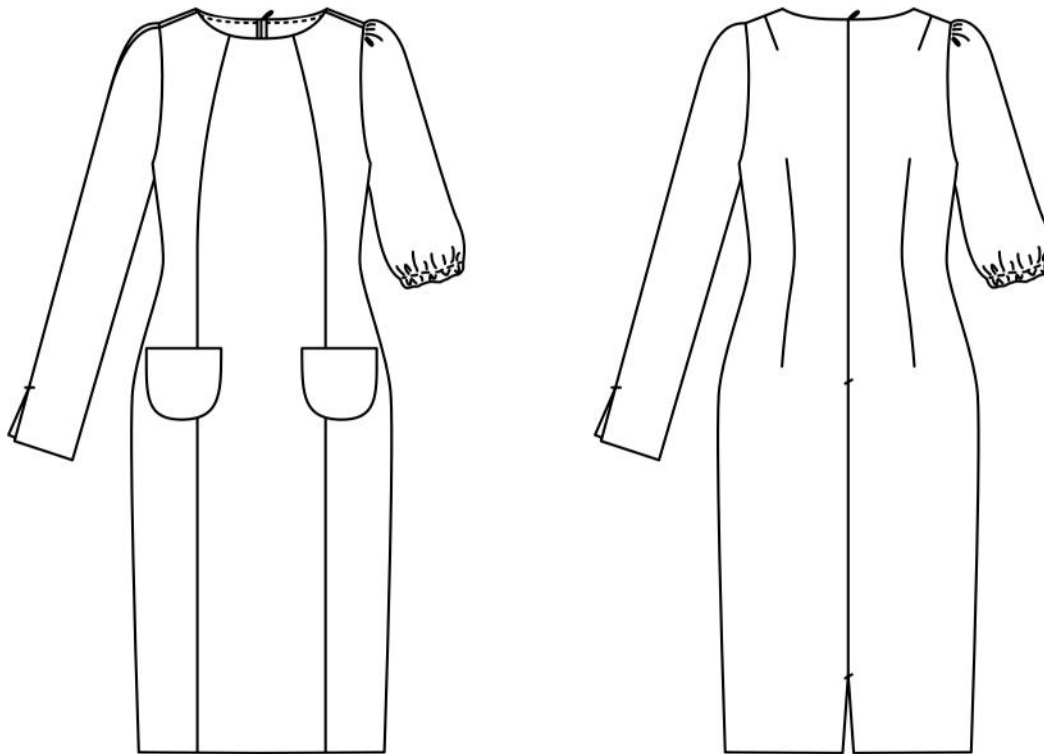


型番：09AW-D02 品名：Dita / ディタ (2スリーブタイトドレス)

イラスト



型紙は著作権物です。型紙をお買い上げの方は、以下の事項に同意したものとみなします。
 ★PDFファイル・出力紙の全てにおいて、転売・配布・貸与を禁じます。
 ★当店の型紙を使用した作品の販売を禁じます。
 ★型紙の使用権は一人一ライセンスとさせていただきます。
 ★当店の型紙を使用した作品をWeb上で公開することを固く禁じては自由です。また、袖口やアラインメントなど自由に変更していただけます。

サイズ表 (仕上がり寸法)

サイズ	36/7号	38/9号	40/11号	42/13号
B	89	93	97	101
W	73.8	77.8	81.8	85.8
H	94	98	102	106
着丈	92.6	94.1	95.6	95.6
肩巾	31	32	33	34
A袖丈	56.5	57.5	58.8	58.5
B袖丈	41.8	42.5	43.2	43.2
A衿丈	72	73.5	75	75.5
B衿丈	57.3	58.5	59.7	60.2
A袖巾	32	33.3	34.6	35.9
B袖巾	32	33.3	34.6	35.9
A袖口巾	21	22	23	24
B袖口巾	22	23	24	25

用尺・付属

A表地	110巾2.5	120巾2.5	145巾1.8	
B表地	110巾2.35	120巾2.15	145巾1.6	
A芯地	92巾0.5			
B芯地	92巾0.4			
伸び止めテープ	1.6m			
コンシールF	56cm			
平ゴム(B袖)	0.6m			

【デザイン】

身頃は前パネル切り替えのタイトストレートシルエット。肩幅が内側に入り込んだデザインで、袖はA・長袖(ストレート二枚袖)、B・6分袖(袖口ゴム入りパフスリーブ)の二種類をつけられます。A袖は外側の接ぎ目線で、B袖はギャザーで肩の丸みを出しているため、むずかしい袖山のイセがありません。小さめの中縫いポケットがポイントになります。無地のウールでシックな感じに、また光沢素材で華やかな感じにも。

【仕様】

後ろコンシールファスナーあき。長袖は折り返しの見返しに縫い目利用のスリット。6分袖は袖口縫い代裏にゴム叩きつけ&ステッチ。ポケットは裏つき・中縫い。身頃・袖は裏なし(無料ダウンロードのベチコートがご利用いただけます)。身頃のみ裏つきにしたい場合の簡易な解説はテキストに記載してあります。

【素材】

中肉素材全般。低テンションの圧縮ニットなどもOK。

【難易度】

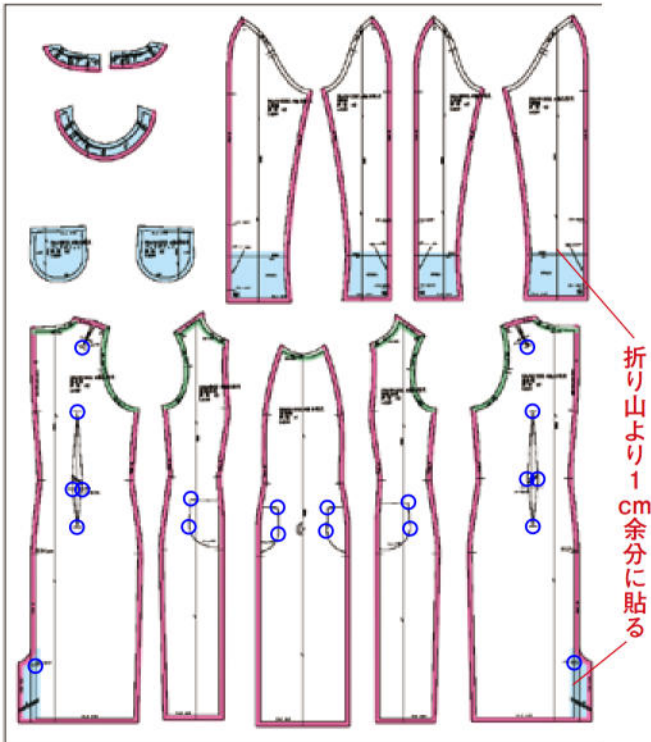
★★☆☆☆

【縫製の前に】

- 地直し…お洋服のお手入れ方法に応じた地直しをしてください。クリーニングに出すなら裏から軽くアイロンをかけるだけでOKです。洗濯で縮みそうな素材はあらかじめ水通ししておくとう安心です。アイロンの熱や蒸気で縮む素材もあるので、ハギレで試してみてください。
- 芯地…使用する表地と芯地の相性を、試し貼りでチェックしてください。縦横斜めに引っ張ってみて、剥がれずアタリが出ないものを選びます。

裁断・芯貼り・印付け

145× 1.8m



・裁断

裁ちあわせ図を参考に裁断する。(図はA袖)

■色のパーツは、全面芯のものはあら裁ち(型紙より一回り大きく裁断)。

合印にノッチ(はさみで2~3ミリの切込みを入れて印とする)、ノッチの入れられない箇所○に糸かチャコで印をつける。

・芯貼り

あら裁ちしたパーツにアイロンで芯を貼り、型紙どおりに裁断する。袖口・身頃裾スリットに部分芯を貼る。

・テープ貼り

—線箇所に伸び止めテープを貼る。(前肩・前後袖ぐりは表側の縫い代だけに貼り、前後衿ぐりは裏側の縫い線にかかるように貼る。)

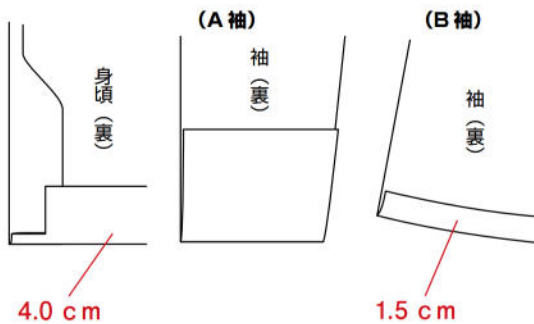
・ロック始末

—線箇所はロックミシンなどで端始末をしておく。(六分袖は袖下・袖口にロック)

アイロン

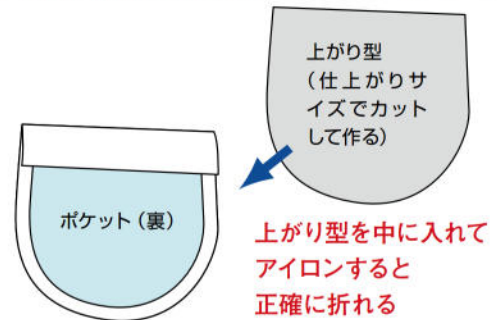
・アイロン箇所

スリット・裾・袖口を仕上がりで折る。



厚紙でポケットの上がり型を作る。

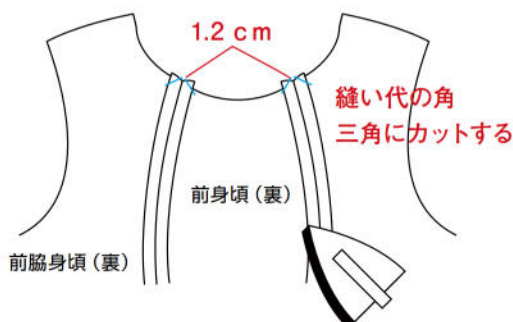
ポケット(表地・裏地ともに)を仕上がりでアイロンで折る。



縫製

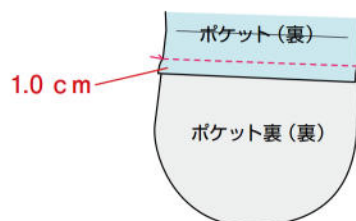
・前身頃

前身頃・前脇身頃を縫い代1.2cmで中表に縫い合わせ、アイロンでしっかり割る。

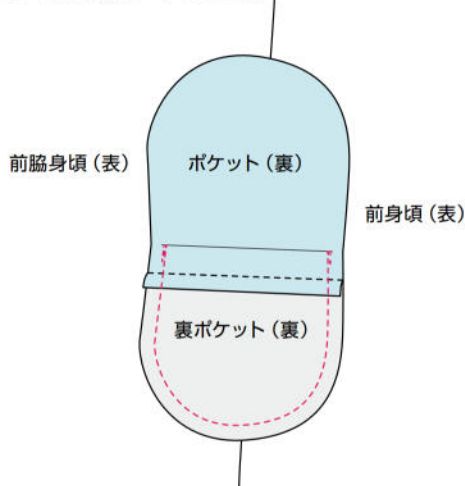


・内縫いポケット

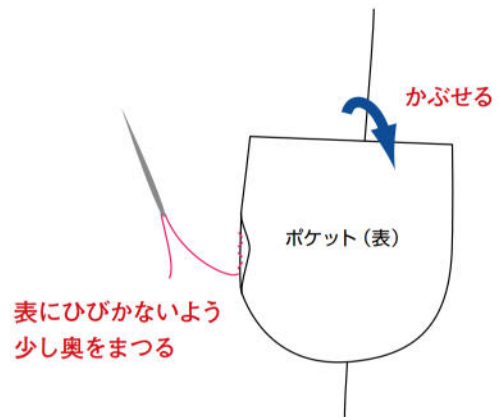
表地・裏地のポケット口を中表に縫い合わせる。縫い代は裏地側に倒してアイロン。



ポケット位置の印に合わせ、しつけする。アイロンの折り目をなぞるようにして裏地側をたたきつける。ポケット口はしっかり返し縫いすること。

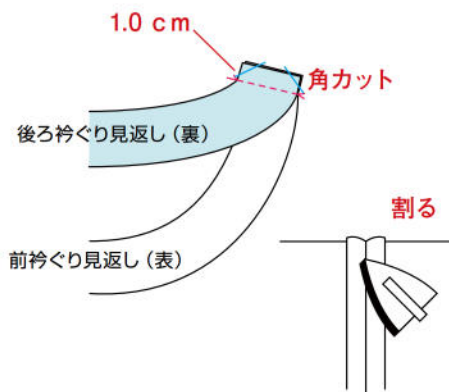


表ポケットをかぶせ、アイロンで折ったとおりに縫い代を折りこんで奥まつりでまつりつける。



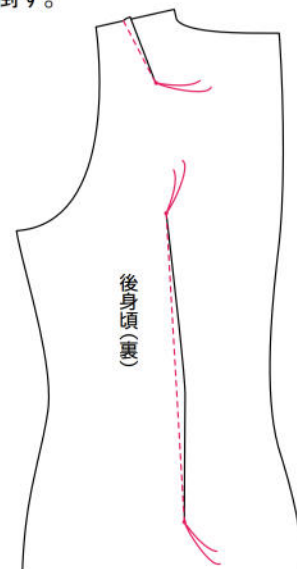
・衿ぐり見返し

両肩を 1.0cm で縫い合わせ、割る。



・後身頃

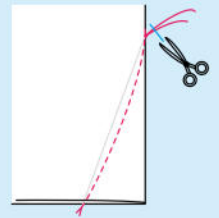
肩ダーツ・ウエストダーツを縫う。ダーツはすべて中心高に倒す。



★ダーツの縫いかた

ダーツ先は返し縫いをせずに、数目布端に沿わせて、自然に縫い消すときれいです。

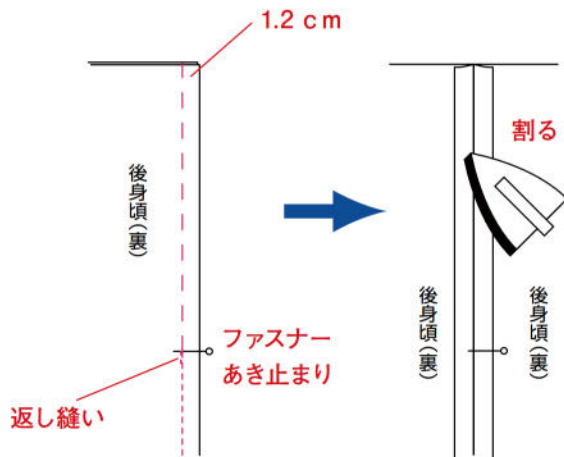
糸端は 10cm くらい残しておき、結んでから余分を切って始末します。



・コンシールファスナー付け

背中心を縫う。

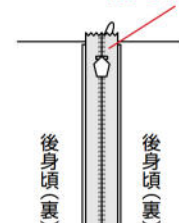
ファスナーあき止まりまでは粗い針目(後でほどくため)で、止まりからはしっかり返し縫いしてから普通の針目で縫う。縫い代は割る。



ファスナーを付け位置にあてて、しつけなどでとめる。

表地が伸びやすい場合、しつけしながら吊るしてみても釣合いをみる。

布端から上止まりまで
1.0 cm あげる



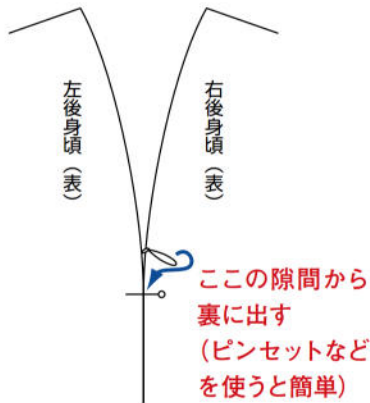
※ファスナーの表裏を間違えないように注意!

★しつけ

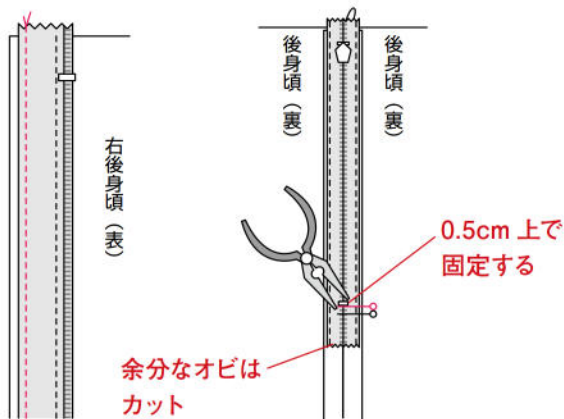
糸でしつけするとズレやすいので、初心者には剥離紙つきの熱接着テープ(MFテープ、SSGテープなど。アイロンでつける両面テープのようなもの)がおすすめです。

下止め金具はあき止まりより
2.0cm 以上
下に下げしておく

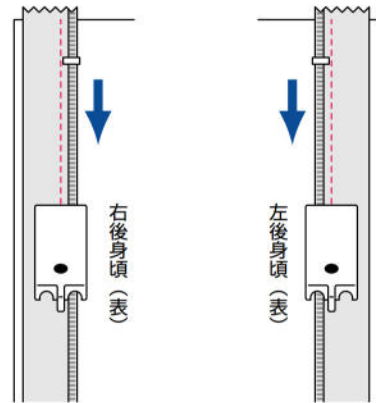
粗い針目のミシンをあき止まりまでほどき、ファスナーを開ける。
スライダール金具は表地とファスナーの隙間から裏に出し、あき止まりより下に下げておく。



ファスナーのオビ端にもう一本ミシンをかけ、縫い代にとめる。
スライダールを表に出し、ファスナーを閉じる。
下止め金具をあき止まりの0.5cm上に移動し、ペンチで締めて固定する。



ミシンの押さえ金をコンシール押さえに換える。
縫い代を広げ、上から下に向かってミシンをかける。
あき止まりぴったりで返し縫いする。

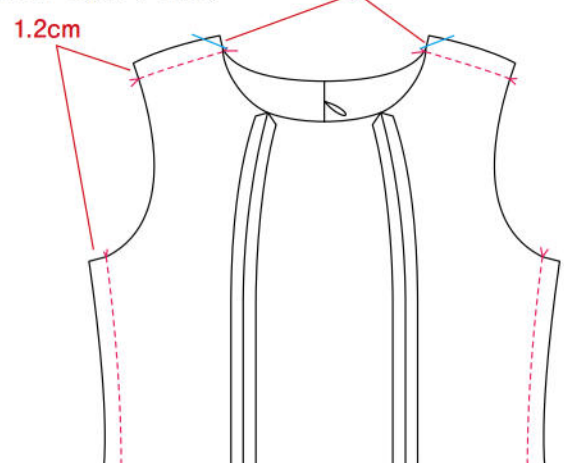


★コンシール押さえ

手芸店で売っています。
ファスナーのムシをはめる溝が彫られた押さえ金ですが、中央に突起のある「爪付きコンシール押さえ」がおすすめです。
押さえ金が勝手にムシを起こしながら縫ってくれるので、楽にきれいにコンシールファスナーがつけられます。

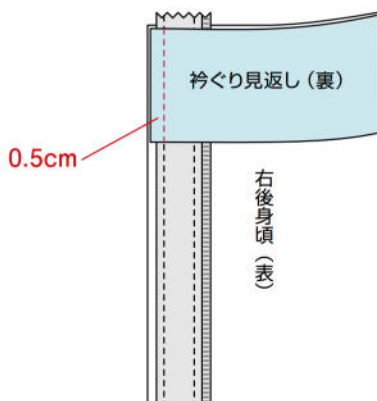
・両肩、両脇

1.2cmで縫い、割る。



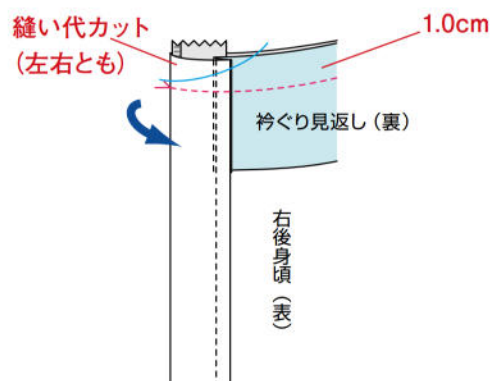
・衿ぐり見返し

背中心の縫い代と衿ぐり見返しの端を合わせ、縫い代0.5cmで縫う。縫い代は見返し側に倒す。

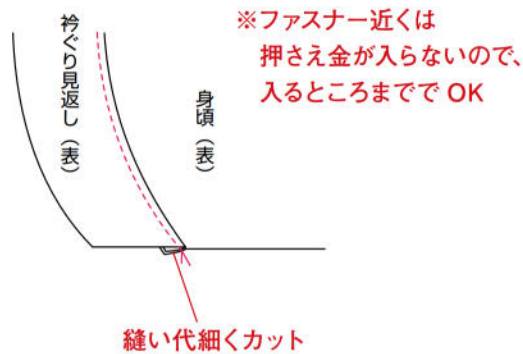


背中心で中表に折り返す(ファスナーの端ぎりぎりをくるむように)。

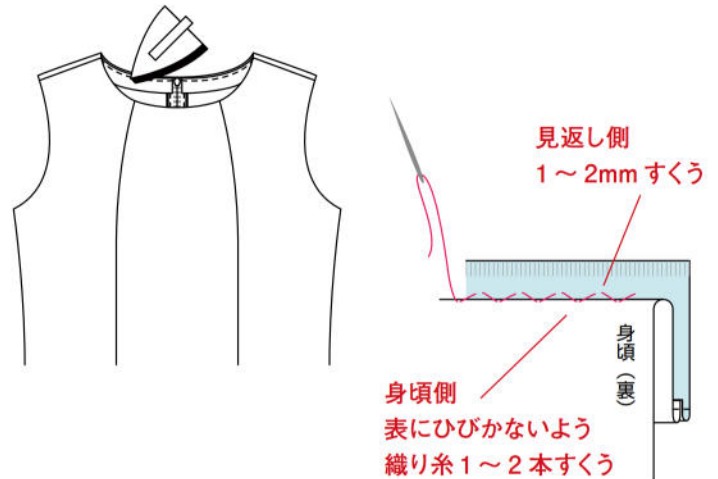
衿ぐりを1.0cmで縫う。



縫い代を半分の巾にカットし、見返し側に倒す。
 衿ぐり見返し側にカゲコバステッチをかけて、縫い代を押さえる。

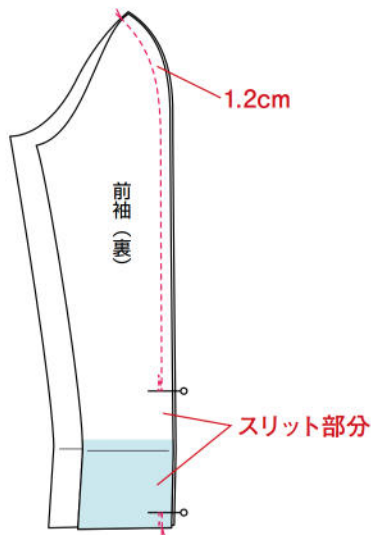


見返し側を 0.1cm くらい控え、仕上がりにアイロンで整える。見返しを奥まつりで身頃にとめる。

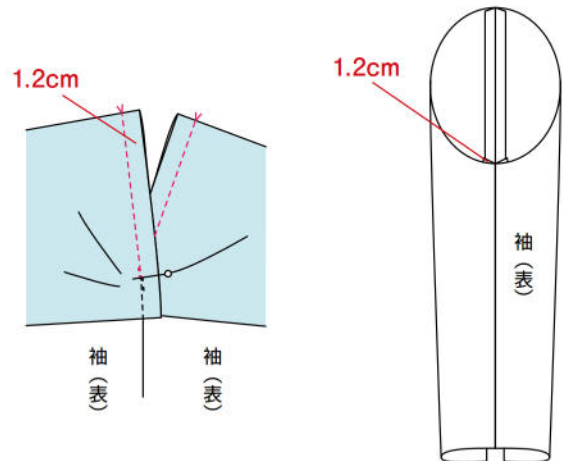


・ A 袖 (長袖)

前袖と後袖を縫い合わせ、割る。
 スリット部分は縫わずに、前後を返し縫いしてあけておく。

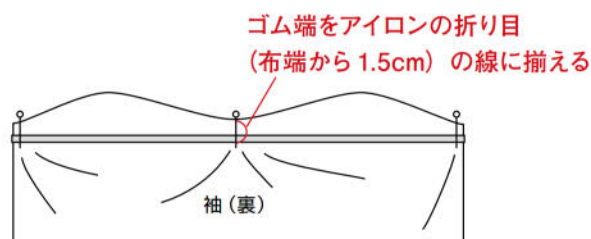


袖口スリットの折り山を中表に折る。
 縦接ぎの縫い目とつながるように、印びったりで返し縫いして縫い合わせる。
 袖下も縫い合わせて割り、筒にする。袖口スリットをひっくり返し、アイロンで整え、奥まつりで仕上げる。

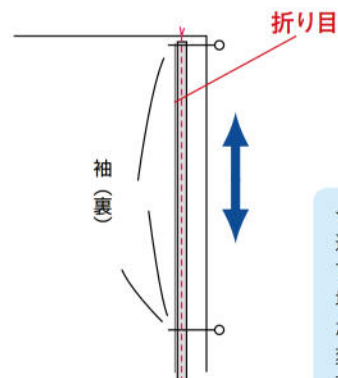


・ B 袖 (6分袖)

ゴムと袖口、それぞれの長さの中央に印をつける。縫い代裏にゴムをあてて、両端と中央の3箇所を待ち針でとめる。



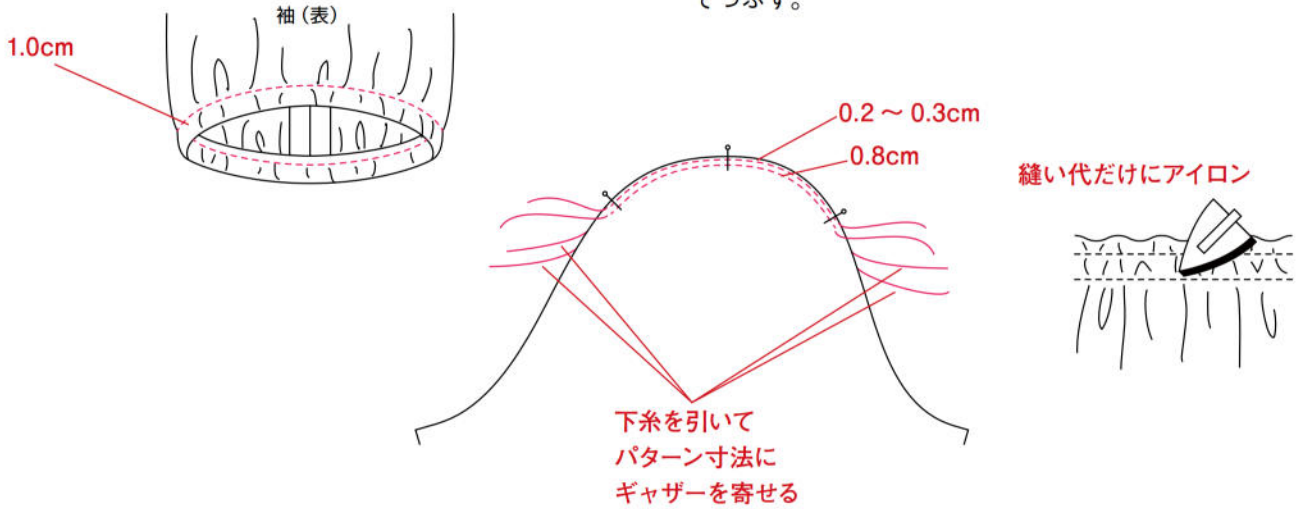
ゴムを表地寸法に伸ばしてたたきつける。ゴム端が袖口の折り目に沿うように注意する。



★ゴムの伸ばし付け
 途中でミシンを止めないで一気に縫ったほうが、均一に伸ばして縫うことができます。押さえ圧が変えられる場合は、やや強めにするとズレにくく縫いやすくなります。

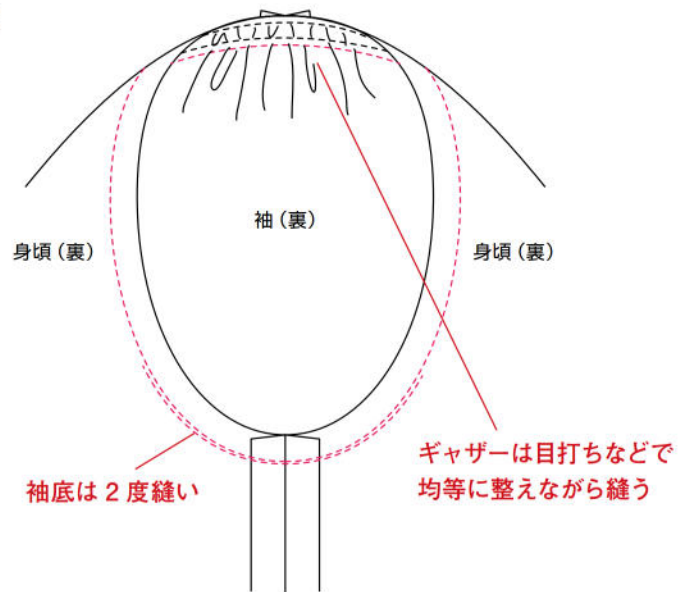
袖下を縫い合わせて割り、筒にする。
袖口を仕上がり折り、ゴムを伸ばしながらステッチで押さえる。

袖山縫い代に粗い針目のミシンを2本かけ、下糸を同時に引いて身頃合印間の寸法まで縮める。糸端は結んで寸法を固定する。
ギャザーを均等になじませ、縫い代だけにアイロンをかけてつぶす。



・袖つけ(長袖・6分袖共通)

袖山と袖ぐりの合印を中表に合わせ、1.0cmでぐるりと縫う。(図は6分袖)
袖底は補強のため2度縫いする。
袖ぐり縫い代はロックをかけ、袖側に倒す。



・裾スリット

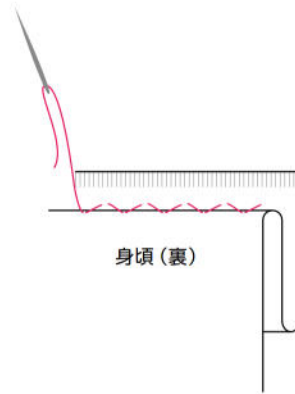
試着して丈を確認する。
裾スリットを折り山で逆に折り、裾を印まで中縫いする。

表にひっくり返して、アイロンで整える。



・裾上げ

スリット・裾を奥まつりで仕上げる。



仕上げ

・仕上げアイロン

全体を軽くアイロンで整えて、できあがり。

アレンジ

・着丈、袖丈

裾から平行に延長・またはカットしてください。

・裏をつける場合

身頃のみ裏つきにする場合、身頃と同型に裁断し、裾は4cm短くカットしてください。ファスナーとスリット部分は図のようにカットします。→図1

ダーツとパネル切り替えはきせをかけずに縫います。背中心（ファスナー止まりからスリットまで）は縫い代0.7cmで縫い、0.5cmのきせをかけます。

表地にファスナーをつけたら、オビ端押さえのステッチはかけずに、裏地と見返しを2枚重ねてファスナーのオビとコの地に中縫い（または手まつり）。→図2

肩はきせをかけずに縫い、脇は縫い代0.7cmで縫い、0.5cmのきせをかけます。

衿ぐりを始末したあと、見返しは裏地だけにまつります。裾は1.0cmの完全三つ折りで仕上げてください。スリット部分は折り込んで手まつりしたほうが簡単です。→図3

袖は表裏2枚を重ねてつけます。

スカート部分だけ裏地があればいいときは、無料ダウンロードのベチコートをご利用ください。

図1



図2

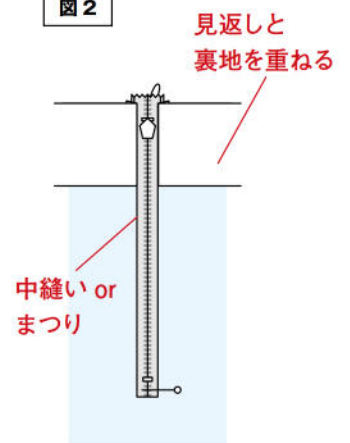


図3

